

2023年度 3年次編入学選抜 「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験（芸術学科は小論文）		面接	
	狙い・意図		狙い・意図	
日本画	専門試験は行なっていません。		持ち込み作品の解説やコンセプト、作品の解説。 また、多摩美に入学したらどのような作品づくりをしていきたいか、自主的に話すことができるかを重視しました。	
油画			提出した作品が、該当学年に相当する技術力、表現力を持ち得ているか。 大学編入後のビジョンはあるか。普段どのような意図で制作しているのか。 本学油画専攻を選んだ理由が明確かどうかなど、総合的に判断して採点を行なった。	
版画			現在までの研究および制作内容を含む提出作品やポートフォリオのプレゼンテーションと専任教員との質疑応答の中で、以下の点をポイントとして評価しています。 ・日本語能力＝質問を十分に理解し、的確に返答できるか（外国人の受験生） ・完成度＝作品とともにポートフォリオ自体に完成度があるか ・意欲・積極性＝志望動機は明確であるか、学業や制作に意欲があるか ・プレゼン力＝持参した作品を基に自身の考えを明確に述べられるか、説得力をもって いるか ・計画力＝入学後の研究に展望をもち、その実現に何が必要であるか把握しているか	
彫刻	持参作品及び過去作品ファイルによる審査。作品の技術的クオリティにも注視しつつ、「入学後のポテンシャル」を精査する		・入学後にどのような制作をしたいか ・卒業後の展望 ・美術以外に関心のあること	
工芸			・本大学、工芸学科への編入理由と志望動機の確認。 ・持参資料による研究内容の確認。 ・進路、将来の展望等の確認。	
グラフィックデザイン	鉛筆デッサン ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の意図や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか ・3年次に相当する能力を有するか		面接 ・編入学志望理由が明確であるか ・授業への取り組みの意欲があるか ・持参作品による描写力、色彩・構成力の基礎的造形力の評価	
プロダクトデザイン	・理解力＝問題の把握、理解が適切か ・発想力＝アイデアが優れているか ・独創性＝他にないアイデアか ・実現力＝アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力＝アイデアが伝わる表現か ・3年次に相当する能力を有するか		・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な色彩感覚とデザイン力を問うことをねらいとして出題しました。与えられたモチーフを観察し美しい形を抽出する力や、構成力と色彩表現に留意し、テーマをどのように解釈しデザインしたかを採点のポイントとしました。		受験者が本学専攻の基礎課程（1・2年次）と同等の教育課程を習得しているか。3年次からの授業についていけるかどうかを持参作品により審査しました。さらに自分の考え方やテキスタイルデザインを学ぶための熱意を明確に説明できるか。他大学の授業体験や知識が在学生の刺激となるかも評価の対象とし採点のポイントとしました。	
環境デザイン	環境デザインが対象とする領域は、身の周りの小さなスケールから、都市のような大きなスケールまで様々です。あるモノ単体だけではなく、複数の関係を空間的に思考することが重要で、それを伝えるためにスケッチや図面といった「想定表現」が必要になります。 その基本的な思考力・表現力を判断するために、実物のモチーフを「想定で立体構成」してデッサンする、という出題でした。「机や背景は描かないこと」としているのは、空間の奥行きや広がりや伝えやすい背景に頼らずに、作者の純粋な立体構成力（空間表現力）を評価出来るからです。		下記のポイントを重視しています。 ・編入学志望理由が明確かつ適切か ・本学科の教育内容を理解しているか ・授業への取り組みの意欲があるか ・本学の2年次までに相当する学力を有しているか	
情報デザイン メディア芸術コース			プレゼンテーションで、これまでの作品などの実績を質問します。 作品説明は、代表作に絞るなど簡潔にまとめて、質疑応答の時間を確保してください。 その実績をもとに、編入学してからどのような計画で成果を出すつもりなのか、具体的なプランを質問します。 作品履歴だけではなく、社会活動・趣味創作に関するものなど、幅広いアクビティに関して質問します。 自分の将来に対する制作ビジョンを、明解に話せることがポイントです。	
情報デザイン 情報デザインコース			面接のポイント 1. 作品が学部2年次終了レベルの品質であるか 2. 作品のプレゼンテーション力、対話・コミュニケーション力は的確か 3. 入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか 4. 卒業後、デザインに対するビジョンがあるか 5. 情報デザイン分野への専門性を理解しているか	
芸術	論述の着眼点が出題内容に対して適切であるか、論旨は明確で説得力があるか、卒業論文を書き上げるのにふさわしい能力があるかという点が判断基準になります。常識的にまとめた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。		芸術学科で何を学びたいか、受験生の知的好奇心や学業および芸術への熱意、卒業論文で何を書きたいか、将来の展望等を質問し判定します。	
統合デザイン	・理解力＝問題の把握・理解が正しいか ・観察力＝日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力＝問題・イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力＝構図、形、光、質感などを描写することに必要な技術が優れているか ・視点＝事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか ・3年次に相当する能力を有するか		・編入学志望理由が明確かつ適切か ・学習意欲があるか ・自分の意志・考えを持ち、明確に述べられるか ・提出作品の内容および説明に対する評価 ・編入前の学習内容・取り組み姿勢	
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	受験生の、理解力、意欲、独創性、観察力、身体認識能力の確認。 グループワークではコミュニケーションにより創作をより発展させて行く能力の確認。		当学科を受験した理由。（具体的であるほど望ましい） 演劇や芸術全般への興味、情熱。	
演劇舞踊デザイン 劇場美術デザイン コース	「手」は全ての造形・創造を生み出す中心的役割を担っています。そして、演劇や舞踊では感情を表現する重要な手段でもあります。基礎的なデッサン力と共に、自由な発想や構図で、独創性や構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、モチーフから物語を創造してドラマチックな世界観を創出することも出来ます。また、演劇舞踊デザイン学科の特色でもある、「光と空間を意識した構成」を表現してください。光の表現・捉え方（陰影の表現）は重要なポイントとなります。用紙の縦横レイアウトは自由ですが、画面構図は大きな採点ポイントとなります。自由な構成や構図で独創性と構成力を見ることがねらいです。情景を想定するということは、実空間の形を捉えるだけでなく、ドラマチックな設定を思い浮かべ、心の中の情景を描くことも可能です。魅力ある個性的な創造力と描写力のバランスがとれていることも重要です。出題者の意図を読みとり、創造力で挑戦し採点者を感じさせ感動させる解答を期待します。		面接試験では持参した作品の説明に重点をおいています。作品は、デッサンや色彩構成などのベーシックなものから、個人作品として制作したもので幅広いラインナップが望ましいです。 作品解説において、明快なコンセプトとそれを実現するための表現を的確に説明出来るかを評価の基準としています。また、決められた時間内に説明ができることも重要な要素です。 3年次編入相当の実技力と専門能力を有しているか、ゼミ授業への希望が明確かを判断します。 作品面接では、提出された修得単位資料では判断し兼ねる、基礎スキルや専門能力のほか熱意も判断基準となります。	

全学科共通小論文

出題)「作品と題名」について、あなたの考えを述べなさい。(800字程度)

- 1) 創作・創造・ものづくりにとって「題名」「タイトル」は、いろいろ思うところのある存在である。なくて良いのか、あって作品を補填するべきなのか、ピカソのように（ゲルニカ以外）いっさいタイトルをつけない姿勢が良いのか、産業界でも型番のようなものだけかと思えば、VW社ビートルの例にあるように名前、ニックネームを与えられて個性を際立たせたものもある。イオス・キッス、ウォークマンも然りである。イラストなどに簡単なタイトルがつけられることが最近では多い。写真にも映像作品には当たり前のようにタイトルがつけられている。タイトルは、創作・創造・ものづくりにとって本質・コンセプトなのか、それとも習慣なのか、あるいは必要悪なのか。
- 2) 1-2年生までとは異なり、3年生から先に成長していくために、ぜひ考えてもらいたい問題である。このことに真摯に答えてほしい。
- 3) 幾つかの具体例があった方が望ましい
- 4) はっきりと肯定、否定する場合でも、明快な理由を記してほしい
- 5) 正しい日本語によって書かれているか。また意味内容が明確であり、かつ強い意欲が感じられるかという点についても合わせて考慮した。